



## 明るく礼儀正しい児童のいる 市街地の学校

石巻小学校

今回は、石巻小学校を紹介します。



▲業間のはじまりは、マラソンです

石巻小学校は、市役所本庁のすぐ近くにある、学区内には、中心商店街・国の行政機関や図書館・公民館・石ノ森萬画館などもあり、商

業・行政・文化の中心地に立地しています。明治6(1873)年、第七学区第二中学区第八十一小学区石巻小学校として、御殿横丁の旧仙台藩主坂御殿を仮校舎に開設された由緒ある学校です。

昭和30年代には児童数が1,800名を超える年度もありましたが、郊外に宅地が開発されたことや近年の少子化の影響により、いまは、児童数319人、14学級となっております。

石巻小学校には、校歌のほかに、約百年間歌い継がれている伝承歌「だるま」があり、児童たちに親しまれています。とてもユニークな歌詞で、学校のホームページで聴くことができます。

平成17年度から、「我が国の伝統文化を尊重



▲寒い冬も休み時間は元気にドッジボール

する教育」に取り組み、「かしわタイム」を中心に実践を展開しています。今年度は、礼儀作法や百人一首・風呂敷の使い方・その他多くの伝統行事などに取り組んでいます。

また、平成16年度から「宮城県小学校英語活動実践モデル地域」の指定を受け、近隣の小・中学校との連携を深めながら英語活動の先導的な実践研究を推進しています。

このように、さまざまな取り組みのなか、礼儀正しい姿を身につけた子ども達は、毎日明るく元気に学校生活を送っています。石巻小学校ホームページ

<http://www.mediaship.ne.jp/~eisisi/>

## にぎやか家族 ⑬

河南



《写真左から》  
 吉田美里ちゃん(12歳) 救急救命士  
 匠くん(8歳) 発明家  
 美緒ちゃん(5歳) お花屋さん  
 美亜ちゃん(4歳) おもちゃ屋さん

《両親から》  
 4兄妹、明るく元気に育ってね。

### 今月の表紙から

2月と言えば「バレンタインデー」を連想します。日本では、バレンタインデーは女性から男性へ愛の贈り物として、チョコレートを贈る習慣があります。

市内の洋菓子店では、チョコケーキやチョコフッキーなど、バレンタインにちなんだ商品作りで忙しくなってきました。

南中里の洋菓子店に勤務している丸田美奈さんは、仙台の専門学校で1年間ケーキづくりを勉強してから就職し、職人として2年目を迎えます。幼稚園からの夢だったこともあり、目を輝かせながら真剣に作業を行っていました。

丸田さんお勤めの簡単でおいしい「生チョコ」(2人分)のつくり方を紹介します。準備するものは、クーベルチュール(ミルク) 120g、牛乳100cc、生クリーム100cc。



丸田美奈さん (真山)

はじめに牛乳と生クリームを合わせて火に掛け、沸騰させます。クーベルチュールを細かくきざんで入れて、かくはんし、冷蔵庫で冷やして出来上がりです。お好みでブランドーを5gくらい、かくはんする時に入れると香りが良くなります。ぜひ試してみてくださいいかがですか。



# サークル仲間

なかま ⑬

## 癒しのフラダンス

### プルメリアものう

今回は、フラダンス愛好者のグループ「プルメリアものう」を紹介します。



▲プルメリアものうの皆さん

「プルメリアものう」は、桃生地区で活動するフラダンス愛好者のグループです。桃生地区と河南地区の方々と組織しています。市内イベントのほか、仙台市などでも踊りを披露しています。

プルメリアものうが誕生したのは平成16年の8月です。旧桃生町商工会女性部で踊っていたことがきっかけでした。商工会女性部のメンバーが減少したのに伴

い、地域の方々を募集し、新たに「プルメリアものう」として発足しました。団体名にもなっている



▲ハワイアンのリズムに乗って踊ります

「プルメリア」とは、花冠や首飾り（レイ）に使われるハワイで最も愛されている花の名前です。

皆さんご存知のとおり、フラダンスは手や腰をくねらせて踊るハワイの民族舞踊です。現在は、観光的な要素が強くなっていますが、本来は宗教的な儀式で踊ったのが始まりと言われています。笑顔がモットーのこの踊りは、楽しく、また、健康にも良い癒しの踊りとしてみんなを魅了します。

週1回の練習の日には、ほとんどの会員が出席し、イベントでの出演を目指し、練習に励んでいます。出演の依頼も多くなっていますので、美しい踊りを披露できるようながんばっています。

# 長寿のみけつ



⑬

## 大工の手腕を生かして

### 新沼 芳雄さん（牡鹿地区鮎川） 86歳

今月は、クジラの木彫りを製作している新沼芳雄さんをご紹介します。

新沼さんの長寿のみけつはクジラの木彫りを製作することです。きっかけは、昭和63年に商工会が国のおらあこし事業の指定を受けて実施した特産品開発事業です。

そこでクジラの木彫り製作に出会い、技術を習得した仲間25人と、クジラのまち鮎川”をPRするために製作・研究グループ「牡鹿鯨友会」を立ち上げました。木彫りには材質が堅くて、木目が美しいケヤキを使用するため、大工の棟梁であり、木材の知識や加工の技術に卓越していた新沼さんがグループの会長になりました。



にもなります。新沼さんの作品は、東北おらあこし物産展で東北6県から約500点が出展された中で、最高賞の東北通産局長賞を受賞するなど多くの栄誉に輝いています。

作品の一部は、子ども達にクジラ文化を知ってもらうため地区内小中学校や公民館などに寄贈しています。

新沼さん これからも作品を作り続けてクジラのまち鮎川”のために頑張ってくださいね!!



新沼さんはこれまで、デパートで開催される物産展などで製作を上演したり、子ども達にクジラの木彫りを指導したりしてきました。これまで製作した木彫りは、大小合わせて500点以上